



愛隣幼稚園.....

園だより

..... 14. 4月号

初めての幼稚園、春の陣

幼稚園の「春」というのは、おおよそその言葉が醸し出す雰囲気には似つかわしくない日々で始まります。今日がその始まりの日です。朝、おうちの人と手を繋ぎ歩いてくる道のりは、ほんのちょっぴりですが期待が膨らむ時間です。道端に咲いたたんぽぽやからすのえんどう、忙しそうに動き始めたアリやダンゴムシ。小さな道草をしながら大好きなおうちの人と歩く幼稚園までの道のりは、ほっとしてそしてウキウキしてきます。1対1、自分の大好きな人を自分のためだけに独占できる！子どもたちにとってそれはとても幸せな時間で、大切な時間でもあるのです。“手を繋いで一緒に歩いておしゃべりをして” たったそれだけのことが大切?!と思われていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。“たったそれだけのこと、それだけの時間” ですが、その中でも子どもたちは受容され大切にされているということを確認することができます。安心で満たされた心は、自ら動き出すエネルギーの源となります。

さて、そろそろ幼稚園が近づいてきました。繋いだ手に力が加わって、言葉も少なくなってきます。笑顔が消えて表情がこわばってきます。「ようちえん、いかない。おうちにかえる。」ここからが『初めての幼稚園、春の陣』の始まりです。おうちの皆さんと子どもたちとの攻防が繰り広げられることとなります。手を変え品を変え、子どもたちとの知恵比べ。誉めてみたり、ちょっと恐い声になって強引に手を引いてみたり。やっとの思いで辿り着いた幼稚園。「やだー。かえるー。」の泣き声。家に帰ってもどうしているだろうか？泣きやんだらどうか？顔を見るまでは心配でなりません。お部屋から出てきた顔には涙はなく一安心。帰る道々聞いてみます。「幼稚園、どんなことしたの？」「なんにもしなかった。」「なんにもしなかったの？あそばなかったんだあ・・・」「うん、だれともあそばなかったよ。」「・・・」ときっとします。ひとりぼっちで寂しそうな我が子の姿を想像して自分のほうが悲しくなったりします。こんな言葉を聞けば誰でもびっくりして不安になります。でも、待ってください。これは『初めての幼稚園、春の陣』です。実は一番必死になって闘っているのは子どもたちです。ですからほんの少し幼稚園に楽しい時間があっても、それはそれ。大好きなおうちの人と離れてたった一人で大海原に漕ぎ出すことになってしまった不安のほうが、子どもたちの心を占めてしまっていますから、やはり、幼稚園の自分を“ひとりぼっち”に感じてしまうかもしれません。ですからこの不安を吹き消すためにはいっぱい安心が必要になります。いっぱい1対1でエネルギーを補給しなければなりません。そこで、今度は子どもたちが手を変え品を変えての〈お母さんこっち向け作戦〉を繰り広げることとなります。そして、毎朝の「ようちえん、いかない！」攻撃が始まるわけです。『初めての幼稚園、春の陣』の図式はざっとこんなところでしょうか。さあ、始まるぞ、という春にこんなことを書いていますが、お家の皆さんを不安な気持ちにさせたいわけではないのです。渦中になってはこんな図式も見えなくなってしまうのです。子育ての中にかかる親子の様々な葛藤の基本形が『初めての幼稚園、春の陣』です。これ以外の場面でも「ん?!これは、もしかして〈お母さんこっち向け作戦?〉」と思われたら、ゆっくり向き合って子どもの心の声に耳を傾けてください。「大丈夫だよ、心配しなくてもいいよ。いつも見ているよ。」と、子どもたちの心を安心で満たしてほしいと思います。幼稚園まで歩く道、大好きなお家の人をひとり占めして歩く時間、そんな時間でも安心のエネルギーは補給されて、また、頑張ってみようと思うことができるのです。もちろん私たちも1日も早く、幼稚園が子どもたちにとって楽しい自分たちの居場所になるよう、頑張ります。『初めての幼稚園、春の陣』子どもは真剣勝負です。私たちは大人ですから汗を掻きつつ、これも楽しんでいけたらいいなと思います。